

## 暖房器具からの火災や事故に注意！！

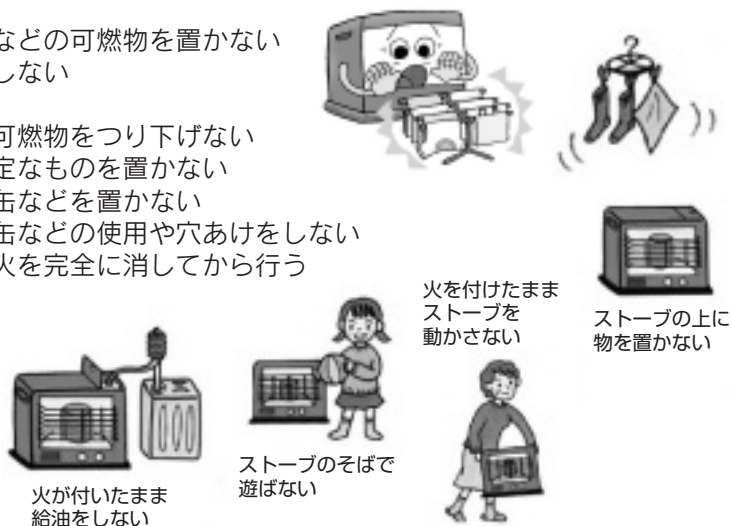
寒さが厳しい日が続きます。この季節、暖房器具などによる火災が発生しやすく、また空気の乾燥などのため被害が大きくなる時期でもあります。また、石油ストーブやガスストーブ、ファンヒーターなどの暖房器具は、一酸化炭素中毒事故が発生するおそれもあります。暖房器具の安全な取り扱い方法や火災を防ぐポイントを確認し、暖房器具による火災や事故を防ぎましょう。

### 暖房器具からの火災の主な原因

暖房器具などからの火災の主な原因として、熱源に「可燃物が接触する」・「可燃物が落下する」、周囲に置いたエアゾール缶などが破裂しガスに「引火する」、石油ストーブなどを「使用中に給油する」などがあります。どれも使用時のちょっとした不注意により火災が発生してしまうものばかりです。使用の際は十分に注意し、火災を防ぎましょう。

### 暖房器具火災を防ぐポイント

- ◆ 暖房器具の周囲に衣類や布団などの可燃物を置かない
- ◆ 暖房器具を使用したまま就寝しない
- ◆ 室内を整理整頓しておく
- ◆ 暖房器具の上に洗濯物などの可燃物をつり下げない
- ◆ 暖房器具の周囲や上部に不安定なものを置かない
- ◆ 暖房器具の周囲にエアゾール缶などを置かない
- ◆ 暖房器具の周囲でエアゾール缶などの使用や穴あけをしない
- ◆ 石油ストーブなどの給油は、火を完全に消してから行う
- ◆ 燃料がこぼれないようにタンクのキャップをきちんと閉める
- ◆ 適正な給油量を確認しながら給油する
- ◆ ガソリンなどを誤って給油しないよう確認する



### 一酸化炭素中毒事故に注意！



石油ストーブ、ガスストーブ、ファンヒーターなどの暖房器具は、室内の空気（酸素）を使って燃焼し、排気ガスを室内に出す仕組みになっています。換気をしないでこれらの暖房器具を使用し続けると、室内空気が汚染されるだけでなく、室内の酸素濃度が低下して不完全燃焼が進み、一酸化炭素が急激に増加し、中毒を引き起こします。室内で、暖房器具を使用する時には、定期的に空気を入れ換えることが必要です。そのためには、1時間に1回以上5分間程度窓を開けるか、時間を決めて換気扇を回すなど、こまめな換気を心がけましょう。

### 換気のポイント

室内の空気の流れをスムーズにすることが大切です。まず換気用の小窓や給排気口が家具などでふさがれていないかを確認してください。次に、空気の出入り口ができるだけ対角線となるよう2カ所（換気扇と窓、窓と窓などの組み合わせ）以上作り、換気が効率的に行われるように工夫しましょう。



住宅用火災警報器を設置しましょう